

● 日本語科目

日本語 I

春学期 及び 秋学期 各8単位 冬期集中 2単位

日本語学習の経験を有する者を対象とします。学習者は100字程度以上の漢字とひらがな、カタカナの知識を必要とします。日常生活に必要な会話と300字程度の漢字を使った読解、作文ができるようになることを目標とします。文法、会話、聴解、作文の授業は『できる日本語』、読解の授業は『たのしい読み物 55』、漢字の授業は『基本漢字 500』を使います。

日本語 I では次のことを目標とします。

- 身近で日常的な話題について、聞いたり話したりすることができる。
- 自分に必要な情報や、興味のあることについて読むことができる。
- 自分のことや言いたいことについて簡単な言葉を使って書くことができる。
- 300字程度の基本的な漢字の読み書きができる。

文法、会話、聴解、読解、作文、漢字を組み合わせる授業を行います。(週 8 コマ、以下 8)

授業内容の例

- 会話の中で新しい表現が使えるように練習する。
- CD を聞いたり、クラスメイトと話したりする。
- 各課で勉強したことを使って活動する。(例: 日本人学生をクラスに招いて話す。自分の町について紹介する。)

(教科書) 『できる日本語 初級 本冊』 アルク、2011
『たのしい読み物 55 初級&初中級』 アルク、2013
『新版 基本漢字 500 Vol.1』 凡人社、2015

日本語 II

春学期 及び 秋学期 各8単位 冬期集中 2単位

中級レベルには達しないが、初級レベルではない学習者を対象にします。使用教材、単位数、学習内容は初級とほぼ同じですが、進む速度が初級より速くなります。また、ここでは、特に一般社会で用いられる文体、特に丁寧な体での会話表現について学習します。

日本語 II では次のことを目標とします。

- 日常的な話題について、聞いたり話したりすることができる。
- 自分に必要な情報や、興味のあることについて読むことができる。
- 自分のことや言いたいことについて書くことができる。
- 500字程度の基本的な漢字の読み書きができる。

文法・会話、聴解、読解、作文、漢字を組み合わせる授業を行います。(8)

授業内容の例

- 会話の中で新しい表現が使えるように練習する。
- CD を聞いたり、クラスメイトと話したりする。
- 各課で勉強したことを使って活動する。(例: 日本人学生やコンビニや書店の店員さんをゲストに招き、インタビューする。自分の国の祭りについて発表する。)

- (教科書) 『できる日本語 初中級 本冊』 アルク、2012
『たのしい読み物 55 初級&初中級』 アルク、2013
『新版 基本漢字 500 Vol.2』 凡人社、2015

日本語 III

春学期 及び 秋学期 各8単位 冬期集中 2単位

中級レベル以上の学習者を対象にします。長文で敬語表現を含んだ複雑な構文を用い、自然な会話ができることを目標とします。文章全体の構造を考えながら分析的に読む練習や、漢字 1000 字程度を用いた作文を書く練習もします。

日本語Ⅲでは次のことを目標とします。

- 日常的な話題に加え、幅広い場面での会話やニュースについて、聞いたり話したりすることができる。
- 自然に近いスピードで、まとまりのある会話ができる。
- 幅広い話題について書かれた新聞や雑誌の記事などを読んで、概要をつかむことができる。
- 日常的な話題での作文、一般的な問題をテーマにした小論文を書くことができる。

科目(コマ)	授業内容(※これ以外の内容を扱うこともあります。)
聞く(1)	<ul style="list-style-type: none"> 簡単なニュースや説明を聞き、必要な情報を聞き取る。 日常生活や大学生活での会話を聞き、内容を予測しながら大意を理解する。
話す a(1)	<ul style="list-style-type: none"> 自分の意見や考えを整理して発表する。(スピーチ、プレゼンテーション) 身近な話題について賛成、反対の理由を挙げて、利点と不利な点を示す。クラスメイトの意見を聞いて、それに対する意見と理由を話す。(ディスカッション、ディベート)
話す b(1)	<ul style="list-style-type: none"> 学校や日常場面での会話を練習する。(依頼、勧誘、謝罪など) 体験や物語を語る。 自分の関心事で、馴染みのある話題について話す。
読む(1)	<ul style="list-style-type: none"> 身近な話題の新聞記事や情報誌から重要点を取り出す。 必要な情報を見つけるために長いテキストにざっと目を通し、情報を収集する。 短編小説などを読んで、出来事の経過や登場人物の行動の動機など、内容を理解する。
書く(1)	<ul style="list-style-type: none"> 書き言葉の文体・表現を学習する。 経験、感情や出来事を含んだ個人的なメールを書く。先生にアポイントのメールを書く。 自分が関心を持つ話題について、意見や説明を詳しく書く。
文法(2)	<ul style="list-style-type: none"> タスクを達成するために、中級レベルの日本語文法・表現を学習する。
漢字・語彙(1)	<ul style="list-style-type: none"> 中級レベルの漢字・語彙を学習する。

- (教科書) 各担当教師が選んだ教材を使う。下に過去の使用教材の例を示します。
『中級 日本語で挑戦!スピーチ&ディスカッション』 凡人社、2012(話す)
『日本語生中継・初中級編 1』 くろしお出版、2006(聞く)
『中級からの日本語プロフィシエンシー ライティング』 凡人社、2012(書く)

日本語 IV

春学期 及び 秋学期 各6単位 冬期集中 2単位

中上級レベル以上の学習者を対象にします。複雑な構文を駆使して、自然な会話ができることを目標とします。1500字程度の漢字を用いて新聞、雑誌、文芸評論等の読解を行います。また、作文の授業では自分の考えを適切に表現する訓練をします。映画や新聞などを使い、上級レベルの学習につなげるための練習もします。

日本語IVでは次のことを目標とします。

- a) 自然なスピードの、まとまりのある会話やニュースを聞いて、話の流れや内容を理解したり、要旨を把握したりすることができる。
- b) 幅広い話題について自然に近いスピードで、まとまりのある会話ができる。
- c) 幅広い話題について書かれた新聞や雑誌の記事などを読んで、文章の構成や内容を理解することができる。
- d) 大学生活に必要な作文、一般的な問題をテーマにした小論文を書くことができる。

科目(コマ)	授業内容の例(※これ以外の内容を扱うこともあります。)
聞く(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・講義、議論、ディベートを聞いて、内容を理解する。 ・標準語の生や放送を聞いて、個人間、社会、学問、職業の世界で通常出合う話題について、理解する。
話す(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の発表テーマについて PPT を作成し、データなどを示しながら詳しく説明する。質問にも対応する。(プレゼンテーション、質疑応答) ・議論に積極的に参加し、コメントしたり、仮説を立てたりする。(ディスカッション、意見交換) ・インタビューする人としてもインタビューを受ける側としても、インタビューに参加する。
読む(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・新書、新聞、物語、論説文など、様々な分野のテキストを読み、内容を理解する。その上で批判的に解釈する。 ・長くて複雑なテキストを読み、理解する。 ・目的やテキストの種類に合わせて、読むスピード、読み方を変えながら読む。
書く(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・論拠、論点を整理してエッセイやレポートを書く。 ・読者として想定して、相手にふさわしい文体で、的確な構成と展開を持つ投書、意見文、志望動機、自己PR文を書く。
総合(2)	<ul style="list-style-type: none"> ・時事問題を含む様々な話題について、ニュース、ドキュメンタリー、インタビューなどを視聴し、それをもとに議論する。 ・ある程度長く複雑なテキストを理解し、必要な情報を整理して、明確な構造のエッセイやレポートを書く。

(教科書)

各担当教師が選んだ教材を使う。下に過去の使用教材の例を示します。

『読む力 中上級』くろしお出版、2013(読む)

『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ 聴解 中上級』

スリーエーネットワーク、2014(聞く)

『小論文への12のステップ』スリーエーネットワーク、2009(書く)

『トピックによる日本語総合演習 上級(改訂版)』スリーエーネットワーク、2010(総合)

日本語 V

春学期、秋学期及び冬季集中 各2単位

日本語能力試験N1取得者またはそれと同等の日本語力を持つ学習者を対象にします。口頭での発表、討論の練習を行います。また、映画、ドラマや新聞、雑誌、文芸評論等の教材を駆使し、上級入門以上の高度な聴解力・読解力を養成します。作文、レポート等の書き方も指導します。

日本語Vでは次のことを目標とします。

- 幅広い場面においてまとまりのある会話、ニュース、講義を聞いて、内容の論理関係や登場人物の関係を理解することができる。
- 幅広い話題について根拠を示しながら論理的に説明することができる。発表の場で質疑応答できる。
- 論理的にやや複雑な文章や抽象度の高い文章などを読んで、文章の構成や内容を正確に理解することができる。さまざまな話題の内容の深みのある読み物を読んで、詳細な意図を理解することができる。
- 大学生活に必要なレポートが作成できる。根拠を示しながら論理的な構成で文章を書くことができる。

科目(コマ)	授業内容(※これ以外の内容を扱うこともあります。)
総合(2)	・時事問題を含む様々な話題について、ニュース、ドキュメンタリー、インタビューなどを視聴し、それをもとに議論する。 ・ある程度長く複雑なテキストを理解し、必要な情報を整理して、明確な構造のエッセイやレポートを書く。

(教科書)

各担当教師が選んだ教材を使う。下に過去の使用教材の例を示します。

『聴解・発表ワークブック—アカデミック・スキルを身につける』スリーエーネットワーク、2007
『日本文化を読む—上級学習者向け日本語教材』アルク、2008
『上級で学ぶ日本語(改訂版)』研究社、2006

日本語概論 I・II

春学期 及び 秋学期 各2単位

今仁 生美

この講義では、日本語の諸問題を、言語学の立場から、学生と教師が共に考え模索していくという方法をとります。したがって、いわゆる「正解」といったものは、この授業では得られません。この講義の目的は、問題解決に至る「試行錯誤」を通して、日本語のおもしろさを体得するということにあります。

春学期では、まず、古代日本語の成立と背景について論じた後、中世の日本語について概観していきます。また、漢字が成立した背景や世界の文字の成立も併せて紹介します。秋学期では、中世の日本語の音や表現を見ることから始め、現代の日本語の特徴(特に日本語に特有な言語特徴)を分析していきます。また、時間が許せば、日本語の否定表現や様相表現に関する問題についても学生と共に考えてみたいと思います。

授業中は、毎回、学生の意見を求めるので、単に座っているだけの学生には向きません。しかし、逆に、授業というものを楽しんでみたい学生、あるいは、考えるというのはどういうことかを体験してみたい学生は受講してみてください。

(講義内容)

- 〔春学期〕
1. 古代日本語の成立と背景
 2. 世界の文字
 3. 中世の日本語
- 〔秋学期〕
1. 中世の日本語
 2. 現代の日本語
 3. 現在の言語研究先端

(使用言語) 日本語

(成績評価方法) レポート及び授業への参加度

日本語会話

春学期 及び 秋学期 各 1 単位

今仁 生美 國澤里美 近藤行人

1. 内容:日本人学生との会話練習
対象者:レベルⅠ・Ⅱの学生に限定
単位:80%以上の出席で1単位
2. 会話練習の目的:
日本語会話力をつける

● 日本事情科目

日本の歴史

秋学期 2単位

鹿毛 敏夫

本講義では、本学が所在する熱田を中心に、名古屋、尾張、愛知、東海地域を題材として日本の歴史を学びます。授業は教室での講義だけでなく、明治時代の古図を使った熱田の散策や、近隣の歴史系博物館の調査などを実施して、現地に残る遺物や古文書などの歴史の痕跡から地域の歴史像を考察します。

[講義内容]

1. 「日本の歴史」概観
2. 熱田地域の歴史(名古屋市熱田区役所)
3. 熱田の台地と古墳群
4. 古代・中世の名古屋
5. 熱田神宮の歴史(熱田神宮宝物館)
6. 愛知の三英傑
7. 尾張徳川家(徳川美術館)
8. 近世の尾張
9. 江戸時代の浮世絵(名古屋ポストン美術館)
10. 東海道の歴史
11. 名古屋市の歴史(名古屋市博物館)
12. 名古屋の近代化

[教科書] 教材を適宜配布する

[参考文献] 「名古屋并熱田全図」明治11(1878)年

[使用言語] 日本語

[成績評価方法] 出席80%、課題レポート20%

日本の文学

春学期 2単位

藤森 秀美

【講義概要】

日本文学は1000年の歴史を持ち、多くの人々に愛されてきました。源氏物語は最古の小説として知られています。現代では村上春樹の小説が世界中で読まれています。

また、日本の人々は、読むだけではなく、自らも作品を作り、文学を楽しんできました。万葉集には身分の高い人から庶民まで幅広い人が作った和歌が収められています。

本講義では、さまざまなジャンルの日本文学作品を読んでいます。文法の解説や、語彙の説明などもしますが、それには重点を置きません。内容を楽しむことを第一の目的とします。

【学習到達目標】

1. さまざまなジャンルの日本文学の作品を日本語で読めるようになる。
2. 文学作品を読んで感想を言ったり、作品について話し合ったりできる。

【講義テーマ】

1. 小説1「緑の獣1」
2. 小説2「緑の獣2」
3. 小説3「緑の獣3」
4. 小説4「緑の獣4」
5. 俳句1 俳句とは
6. 俳句2 名句鑑賞(松尾芭蕉・与謝蕪村・小林一茶)
7. 俳句3 俳句を詠む
8. エッセイ
9. 短歌1 短歌とは
10. 短歌2 栗木京子の歌を読む
11. 短歌3 若い人の短歌を読む・短歌を詠む
12. 詩 「生きる」
13. 試験

【成績評価方法】

1. 授業への参加度 25%
2. 課題 25%
3. 試験 50%

【教科書】

プリントを配布します。

【使用言語】

日本語で授業を行います。

【履修上の注意】

日本人が読むものをそのまま教材として使うので、それを理解できる日本語Ⅲ、Ⅳクラスの学生が対象になります。

日本の文学

秋学期 2単位

加藤 利枝

この授業では、日本の古典文学(随筆)と俳句、近・現代小説を扱います。

古典文学を読むときには、文法や語彙の説明も必要に応じて行いますが、それより、話の内容を楽しむことに重点を置きます。

授業はすべて日本語で行いますから、日本語Ⅲ以上のクラスの学生でないと思いません。

(講義内容)

- (1) 古典(随筆『枕草子』他)
- (2) 俳句作品(近世～現代)
- (3) 近・現代小説(村上春樹、他)

日本の経済

春学期 及び 秋学期 各2単位

阿部 太郎

日本経済は戦後、1945年の敗戦から驚異的な復興を遂げ、先進国の仲間入りを果たした。しかし、90年代初めのバブル崩壊から経済停滞に苦しんできた。その上、2008年に起こった世界的な金融危機、2011年3月の東日本大震災に見舞われ、難しい舵取りを迫られている。

この講義では、日本経済の戦後六十数年の大まかな流れと現在の状態について学ぶ。講義の中で適宜、マクロ経済学の基本的な知識についても学ぶ。なお、内容が変更になることもある。

- (講義内容)
- 1～2 序論
 - 3～4 復興期
 - 5～6 高度経済成長期
 - 7～8 安定成長期
 - 9～10 平成不況期
 - 11～12 現在の諸問題

(成績評価法)

授業への参加度(出席状況など) 60%

日本の経済社会に関するレポートの提出またはプレゼンテーション 40%

(教科書) プリントやパワーポイントのスライドのコピーを必要に応じて配布する

(参考図書)

Tsuru, S. Japan's Capitalism, Cambridge University Press, 1993

(使用言語) 主として英語

日本の経営

春学期 2単位

中村 義寿

本講義では、日本の歴史、社会、文化等との関連にも目を向けつつ、第二次世界大戦後の日本の経済発展を支えてきた「日本的経営」の諸特質について考察する。あわせて、バブル崩壊後の長期低経済成長下で、しかも昨今の国際化、少子・高齢化、情報化などの急速な進展下でこの伝統的な経営にどのような変化がみられるかを説明するとともに、これからの国際社会の中で日本の企業に求められる経営方式としての、「新」日本的経営について共に考えていきたい。

- (講義概要)
- 1. 日本の企業システム
 - ① 資金調達と所有
 - ② 雇用関係
 - ③ 企業間取引
 - ④ 政府と企業
 - ⑤ 労使関係
 - 2. 日本の企業行動
 - ① 意志決定
 - ② 経営理念・目標
 - ③ 経営戦略
 - 3. 環境変動下の日本的経営

(教科書) テキスト教材を適宜配布する。

(参考書) Cheng, J.L.C.; Peterson, R.B. (eds.), *Advances in international comparative management*, JAI Press Inc, 13 vols. 1984-2000.

(使用言語) 日本語

(成績評価方法) 学期末レポート

日本の経営

秋学期 2単位

岡本 純

これまで日本の経営を説明する場合には、その特徴として経営慣行・人事諸制度および労働者の行動様式などを海外企業の経営と比較して論じるのが一般的であった。

しかしながら、「日本的経営」も、バブル崩壊以降「株主価値の重視」「コーポレートガバナンス」「成果主義」などに代表される「日本的経営」とは異なる経営スタイルを多くの企業が何らかの形で導入するに至り、いわゆる「年功序列」「年功賃金」「終身雇用」の諸制度は、非正規雇用の増加とともに既に崩壊の様相を呈しているかに見える。

本論では、日本的経営の本質について説明するとともに、変化しつつある今日の日本の経営スタイルを欧米のそれと比較しながら論じる。そして、学生諸君に日本の経営スタイルを自分なりに一定のイメージを持ってもらうことにある。したがって、さまざまな具体的事例、ビデオや新聞報道も用いて現代の日本の経営のありようについての理解を深める。

(講義概要) 1. 序論

2. 日本と欧米の経営スタイルの差異
3. 日本企業の組織
4. ヒューマンリソースマネジメント
5. 日本企業の系列組織やグループ
6. 日本企業における流通システムと生産システム
7. 今日の日本企業の経営(サプライチェーンマネジメント)
8. 今日の日本企業の経営(国際化)
9. 今日の日本企業の経営(マーケティング・イノベーション)
10. 今日の日本企業の経営(CSR)
11. 今日の日本企業の経営(21世紀の日本企業の経営)
12. ケーススタディ(楽天、ユニクロ)

(教科書) プリントなどを適宜配布する

(参考図書) James C. Abegglen, "21st Century Japanese Management", Palgrave Macmillan, 2006

ジェームス・C・アベグレン, 山岡 洋一(翻訳), 『新・日本の経営』日本経済新聞社 2004

(使用言語) 日本語/英語

(成績評価方法) クラスへの参加度(40%)、レポート(60%)

日本の社会

秋学期 2単位

木村光伸・長田こずえ

日本の社会の特徴と変化を、歴史的な背景、文化的な意味、人間行動の特徴、政治経済的な背景を明らかにしていく。また、現代日本社会の重要問題となっている、自然環境保全、環境汚染と日本型環境社会、資源・エネルギー問題、福祉社会へのアプローチ、高齢社会と少子化の社会的背景、ジェンダーの問題などにも焦点を当てて考える。日本の宗教や世界遺産、日本の外交などについても考察する。

「講義概要」

1. 日本社会の歴史的発展過程を知る
2. 日本人の日常生活を学修し、さまざまな社会的状況を体験する
3. 現代日本の抱える諸問題を検討し、日本社会の特質を考える

「講義要旨」

1. 日本の自然と社会への招待
2. 日本の自然環境の特色 1 地理的視点から
3. 日本の自然環境の特色 2 自然構造と季節感・美意識
4. 日本における都市と農山村
5. 日本の産業構造と資源・エネルギー
6. 日本人の暮らしを考える
7. 日本の社会、ポップ文化、政治の基本
8. 日本の宗教、言語、マイノリティー文化(アイヌや沖縄)

9. 日本の建築とユネスコ世界遺産
10. 変貌する女性の地位と役割
11. 日本の外交と国連への貢献
12. 日本の人口問題と少子化－福祉問題　＋個人の発表

「成績評価方法」 成績評価は以下の要領で行う。

1. 前半の授業への参加度（討議など） 10%
2. 前半の「レポート」 40%
3. 後半の授業への参加度（討議など） 10%
4. 後半のプロジェクトと発表 40%

「使用言語」 英語/日本語

「テキスト・参考資料・図書」 セッション毎にパワーポイントやプリントアウトを準備します

日本の観光

春学期 及び 秋学期 各2単位

村田 久美子

今年度より、本講座では中部地区のインバウンド観光について学びます。

授業の一環として、愛知県観光振興課の職員を招き愛知県のみどころについてディスカッションを行う予定です。また、地元名古屋市内の日本酒蔵の担当者を教室に招き、酒造りについて話をきくなど実践的な観光のありかたを学んでもらいます。現役通訳案内士(ガイド)の資格を持った講師が、中部の主要な観光スポットを毎回取り上げていきますが、最終回には、生徒によるインバウンド観光促進のアイデアについてプレゼンテーションをしてもらいます。

日本政府観光局が2016年1月に発表した2015年の訪日外国人数(推計)は1973万7000人で、45年ぶりに訪日外国人数と出国日本人数が逆転しました。前年比47.1%の増加です。過去最高だった2014年の1341万3000人よりも約600万人上回りました。政府は、観光を成長戦略の柱の1つと位置づけており、観光立国実現に向けた具体的なアクションプランも進んでいます。今後は観光業がさらに成長していくことになるでしょう。

春学期は日本語で講義をするため、レベルIII以上の語学力があることが望ましいです。

秋学期は英語で行います。

【成績評価方法】出席、宿題(都道府県ミニテスト)、期末試験、口頭プレゼンテーション

【講義概要】

日本の観光政策および、インバウンド観光の現状を学びます。とくに中部地区における観光の名所を学習しつつ、今後の観光のあり方を考える授業です。

中部地区の主な観光地について、みどころを説明できるようになります。

外部からスピーカーを招き、中部地区の観光促進のための実用的なトークも聞くことができます。とくに愛知県観光振興課の職員とのディスカッションでは留学生の立場から愛知県に対して質問、提案を行うことができます。基本的な日本の地理を身に付けてもらうため、毎回47都道府県を地域別に分け、ミニテストを行います。

1. イントロダクション 国内主要観光地紹介及びインバウンド観光の現状
2. 名古屋市内の観光地及び、日帰り観光地
3. 名古屋城と堀川
4. 高山・白川郷 世界遺産の村
5. フィールドトリップ訪問先
6. 伊勢神宮、伊賀上野

7. ゲストトーク:愛知県観光振興部職員による愛知県の魅力
8. ゲストトーク :名古屋市内の酒蔵オーナーによる日本酒の説明
9. 中部地区観光に関するプレゼンテーション
10. 期末試験

【使用言語】 春学期 日本語 秋学期 英語

日本の文化

春学期及び秋学期 各2単位

増田 喜治

本講義では歌舞伎における身体動作、発声と対話および伝統音楽(三味線)から日本文化を学びます。日本文化の要素の一つである「間」の概念をビデオ分析と音声解析により学びます。履修者は江戸歌舞伎の代表作である「助六」を鑑賞し、帰納的に日本文化のエッセンスを学びます。指定された教材によりテーマ討論が行われますので、準備と積極的な授業参加を期待しています。

講義内容

1. イン트로ダクション
2. 歌舞伎の背景
3. 日本人の歩行
4. 日本人特有の脳はあるか：美学と三味線
5. 歌舞伎学：助六1（揚巻の歩行とその分析）
6. 歌舞伎学：助六2（助六の歩行とその分析）
7. 歌舞伎とバッハ
8. 歌舞伎学：助六3（揚巻の会話とその分析）
9. 歌舞伎学：助六4（助六の会話とその分析）
10. 歌舞伎学：助六5（間について）
11. 「歌舞伎と日本文化」の課題プレゼンテーション
12. 寅さんシリーズ1（渥美清の歩行とその分析）
13. 寅さんシリーズ2（渥美清の会話とその分析）
14. まとめ

日本の国際関係 アジアのなかの日本 一日中関係の歴史

秋学期 2単位

中田 昭一

近年の日中関係は、かつての「日中友好」の時代とは異なって、相互嫌悪と敵意が高じつつあり、東アジアの中長期的な将来にとってかなり危険な状態にある。互いに最大の貿易相手国である事実を鑑みれば、日本には中国を敵にする余裕はなく、それは中国としても同様であろう。健全な日中関係の構築に向けて、冷静な議論が求められる。両国の間に横たわる最大の障害は歴史問題であるといえよう。本講義では、日中関係の歴史を振り返りつつ、日中が「歴史和解」を実現するための方策を検討してみたい。

- (講義内容)
1. 古代の東アジア
 2. 遣唐使と日本国家
 3. モンゴル襲来と日本社会
 4. 明治以後におけるアジア観の変容
 5. 洋務運動と明治維新
 6. 日清戦争
 7. 第一次世界大戦と日中関係
 8. 「満州事変」
 9. 在華紡の発展
 10. 日中戦争
 11. 戦後の日中関係
 12. 日本人帰国者の現在

(参考文献) 歴史教育者協議会『東アジア世界と日本』青木書店、2004年
尾形勇他『中国の歴史 12 日本にとって中国とはなにか』講談社、2005年

(使用言語) 日本語

(成績評価方法) 出席(80%)および課題レポート(20%)

日本語Ⅳ・Ⅴを履修している学生は、学部担当教員の許可を得た上で、本制度を利用できる。

日本事情演習1 ー 日本文化と芸術 I ー

春学期 及び 秋学期 各2単位

田口 知洋

[春学期]

(講義概要)

アジア大陸の東に位置する日本は大陸からの多様な文化を吸収して文化や芸術を形成してきた。更には近年においては西洋文明を熱心に吸収してそれを日本社会に適応させ短期間に近代化を果した。それに加えて戦後の日本においてはそのような近代化を基にして様々な文化や芸術が花開いた。本講義では、アジアとの交流によって形成された伝統的な日本の文化や芸術を歴史的に追究する。

(講義目標)

本講義の目的は、日本の文化や芸術の到達点を歴史的な視点から多面的に理解することである。そのため、先史時代から江戸時代までの伝統的な日本文化と芸術を歴史的に学習し、日本文化の形成に貢献した様々な階層―皇室・貴族・僧侶・武士・商人・町人―や西洋人などの活動に焦点を当て、彼らがどのように日本の文化や芸術の形成に貢献し、どのように美的感覚を洗練させたかを理解する。

学生は日本の文化や芸術の発展を促した内的・外的要因を理解することができる。

学生は各時代を代表する事物を知ることによって日本の文化と芸術に関する見方を広げることができる。

学生は現在もなお影響力のある伝統的な美意識を理解することができる。

学生は鎌倉・京都・奈良・東京などの歴史的都市の背景を知ることができる。

(講義内容)

1. 先史時代の文化形成の始まり (縄文文化)
先史時代の文化形成、その発展、及び美意識の特徴
2. 先史時代の文化発展 (弥生、古墳文化)
弥生時代から古墳時代への発展とその美術
3. 仏教の伝播と模倣の時代 (飛鳥、白鳳、天平文化)
仏教の衝撃とその広がり、3段階の仏教文化の様式的発展、及び漢字の普及
4. 仏教美術の発展
仏教寺院における絵画・彫刻・建築・工芸の発展

5. 平安時代の貴族文化の発展
唐風文化の形成、密教の導入、浄土信仰の広がり、及び国風文化の発展
6. 貴族の美術とその美意識
絵巻や様々な美術分野における貴族の美意識の洗練と様式的発展
7. 武士文化の発展
武士政権の成立、文化や美術における武士様式の創造
8. 禅文化の発展
禅の影響の下で発展した禅文化と美意識
9. 能楽
能の演目の鑑賞、能完成までの過程、及び能楽の特徴
10. 桃山文化と侘びの美意識
新しい指導者の下で発展した侘び茶の美意識や美術の動向
11. 江戸文化と意気の美意識
上方と江戸における、洗練された町人文化とその美意識
12. 文楽と歌舞伎
文楽と歌舞伎の発展と町人の楽しみ方

(教材) ビデオ、スライド、図録などを使用し、その都度資料を配布する。

(使用言語) 英語

(成績評価) 出席率30%、宿題と発表30%、学期末レポート(約2000語)40%

* 学期末レポートを書くにあたっては、学生は最低一冊の本を読むこと。

[秋学期]

(講義概要)

アジア大陸の東に位置する日本は、大陸からの多様な文化を吸収して文化や芸術を形成してきた。更には近年においては西洋文明を熱心に吸収し、それを日本社会に適応させ短期間に近代化を果たした。加えて戦後の日本においてはそのような近代化を基にして様々な文化や芸術が花開いた。本講義では、近代日本において西洋文明との交流によって成し遂げられた文化や芸術の成果及び、戦後に活発になった大衆文化の形成と現況について探究する。

(講義目標)

本講義の目的は、絵画からビデオゲームまでの到達点を探究することによって日本の近代化の多様性を理解することにある。

学生は日本が国際化と西洋化の基準に適合させるためにどのように文化芸術の各分野を近代化したのかを理解できる。

学生は代表的な日本文化である漫画・アニメ・時代劇映画・ビデオゲームなどが、世界から注目を浴びるようになった顕著な要因を理解することができる。

(講義内容)

1. 近代化する日本
近代化の始まりから今日までの文化発展まで
2. 万博参加とジャポニズ
万博参加による日本の文化の国際社会への登場、及び美術における相互関係
3. 日本美術の近代化の始まり
主要な芸術家たちの美術作品と近代化への挑戦
4. 近代化する日本の芸者とその文化
近代化に果たした芸者の役割と明治時代の日本女性の社会活動
5. アイヌ民族の伝統と近代化
アイヌの歴史と文化、アイヌに同化政策を課した日本の近代化
6. 夏目漱石と近代化

近代文学の始まり、夏目漱石や森鷗外を通してみる日本人の近代化への向き合い方

7. 日本映画の歴史

創成期の日本映画とその発展

8. 特撮映画と円谷英二

円谷英二の特撮映画に見る創成期の特撮映画と戦争体験

9. 戦中・戦後の日本映画

戦中から戦後にかけて活躍した映画監督一黒澤明、溝口健二、小津安二郎、成瀬巳喜男、五所平之助の達成したもの

10. 漫画の歴史と手塚治虫

漫画の歴史と漫画を発展させた手塚治虫の功績

11. アニメーションの発展と宮崎駿

宮崎駿の作品とアニメーションの発展

12. ゲーム産業とゲームの創作

ビデオゲームの歴史と主要なゲーム創作者の功績

(教材) ビデオ、スライド、図録などを使用し、その都度資料を配布する。

(使用言語) 英語

(成績評価) 出席率 30%、宿題と発表 30%、学期末レポート(約 2000 語)40%

* 学期末レポートを書くにあたっては、学生は最低一冊の本を読むこと。

異文化間コミュニケーション

春学期 及び 秋学期 各2単位

吉野 勇夫

世界がボーダーレスになり、ビジネスや旅行や留学で多くの人々が異文化に出入りしている現在、異文化間コミュニケーションの重要性が強調されています。善意の言葉が時には侮辱と受け取られるなど、異なる文化の人たちと交流すると、自分の文化では予想もしなかったような落とし穴に出会います。

これは互いに異なる考え方や価値観を持っているからです。この講義では、実際のビジネスの現場で起きた異文化摩擦の実例を取り上げながら、日本人独特の考え方、価値観、習慣など文化的背景を学びます。

講義概要

1. 異文化間コミュニケーションとは？
2. 日本型経営方式の特徴、日本のビジネスマンの行動様式
3. 日本人の「仕事観」とその背景
4. 事例1) トヨタ自動車の仕事の仕方
5. 事例2) 日米貿易摩擦の推移（主に自動車分野）
6. 事例3) NUMMI (New United Motor Manufacturing, Inc.) の設立
7. 事例4) NUMMI の基本理念
8. 事例5) NUMMI の従業員に起きた変化
9. ビジネス現場における異文化摩擦の具体例 (1)
10. ビジネス現場における異文化摩擦の具体例 (2)
11. ビジネス現場における異文化摩擦の具体例 (3)
12. 異文化摩擦の具体例から学ぶこと

(教材)	テキスト教材を配布する
(使用言語)	英語
(成績評価)	授業中に質問・意見(60%)、課題レポート(40%)

スポーツ 1	— 春学期:テニス、 秋学期:バドミントン —
春学期 及び 秋学期	各2単位
	白井 徹

心身ともに健康に生きていくための実践方法を、発育発達の完成期にありしかも感性豊かな大学期において身につけることは必要不可欠なことである。

これらの種目は生涯にわたって友人や家族と楽しめるようなスポーツ種目である。積極的に取り組んでほしい。

【学習到達目標】

目的は次の3点に要約される。

- ①運動・スポーツの合理的な実践を通して、心身の調和のとれた発達と運動技能の習得をはかる。
- ②運動・スポーツを通してその楽しさや有意義さを体験し、自主的に運動する習慣を身につける。
- ③運動・スポーツにおける競争や協同の経験を通して、フェアプレーの精神を身につける。

【履修上の注意】

身体的に他の学生と一緒に運動することが困難な学生はガイダンス時に担当教員と相談すること。

[春学期] 種目：テニス

【講義・テーマ】

- 1回 ラケットワーク(ラケットの使い方)
- 2回 フォアハンドストローク
- 3回 バックハンドストローク
- 4回 ストローク、サービス
- 5回 ボレー、サービス
- 6回 サービス、ラリー
- 7回 ダブルスフォーメーション(1)
- 8回 ダブルスフォーメーション(2)
- 9回 ダブルスフォーメーション(3)
- 10回 ダブルスゲーム
- 11回 ダブルスゲーム
- 12回 ダブルスゲーム
- 13回 テスト
- 14回 期末試験期間
- 15回 期末試験期間

(教科書)	テキスト教材を適宜配布する
(使用言語)	英語
(成績評価方法)	授業への参加度とレポート

[秋学期] 種目：バドミントン

【講義・テーマ】

- 1回 用具の説明と基本動作(グリップ・フライトについて)
 - 2回 ハイ・クリヤー、ドライブ、ドリブン・クリヤーの練習
 - 3回 ドライブ、スマッシュ、ヘヤピンの練習
 - 4回 ハイ・クリヤー、スマッシュ、ドロップ・ショットの練習
 - 5回 基本技術のチェックとコート半分での乱打
 - 6回 フットワーク
(ドロップショットとネットフライト組合せ、スマッシュ・ネットフライト・クリヤー組合せ)
 - 7回 サーブ、レシーブ、ヘッドワークについて
 - 8回 ダブルスゲームの説明
 - 9回 ダブルスゲーム
 - 10回 ダブルスゲーム戦術(サイド・バイ・サイド)
 - 11回 ダブルスゲーム戦術(トップ・アンド・バック)
 - 12回 ダブルスゲーム戦術(ダイアゴナル)
 - 13回 テスト
 - 14回 期末試験期間
 - 15回 期末試験期間
- (教科書) テキスト教材を適宜配布する。
- (使用言語) 英語
- (成績評価方法) 授業への参加度とレポート

スポーツ 2(空手初級) ・ 3(空手上級)
春学期 及び 秋学期 各2単位 出口 善治

日本の伝統文化である空手道について実技を中心に理解します。空手道は中国から沖縄へ伝来して達した武器を持たず、手足による突き・蹴り・受けを基本とする武術です。

授業では、空手道の礼節をはじめとして基本・形・組手を学び、暴漢などに対応できるような技術を身に付けます。初心者が楽しく、分かりやすく体得できるように指導しますが、授業への出席と十分な復習が必要となります。帰国後も護身術として活用出来るとともに本人の頑張り次第では最終授業での「級」の資格取得も可能となります。また、最終授業には古武道や居合道なども体験出来るよう指導します。

- (講義内容)
- 1-2. 礼儀、心得、初歩動作、模範演技
 - 3-4. 基本技術の練習(突き、打ち、当て、蹴り、受け、体さばき)
 5. 形(基本)
 6. 形(分解)
 - 7-8. 組手(対人技術の練習)
 - 9-10. 護身法
 11. 総合のまとめ
 12. 総合のまとめ・演武
 13. 実技試験

- (教科書) テキスト教材を適宜配布する
- (使用言語) 日本語
- (服装) 運動の出来る服装
- (成績評価) 授業への参加度(80%)と実技試験(20%)

インターンシップ

冬季集中講義後 各2単位

留学生別科で学ぶ外国人留学生を対象に、日本企業などでの研修を目的とする「インターンシップ」が開かれています。研修期間中は講義、実習、見学及び社員との交流などが予定されています。参加学生は日常会話程度の日本語能力が必要です。実施期間は冬季集中講義後、2週間実施されます。なお、受講生は、その仕事が基本的に要求する条件を満たさなくてはなりません。

日本事情総合 1～5

(日本語Ⅳ、日本語Ⅴ履修生のみ対象)

春学期 及び 秋学期 各2単位

別科生が本学学部開講の人文・社会系科目を履修し、単位を修得した場合には留学生別科の本科目へ振り替えることができます。

日本語Ⅳ・Ⅴを履修している学生は、学部担当教員の許可を得た上で、本制度を利用できる。